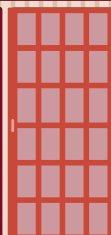


田端文士村記念館開館30周年 記念展

芸術村の



お住居 拝見



アトリエでの創作風景と暮らし

2024年 2月23日 金・祝 5月26日 日

※休館日を除く

【開館時間】

10:00~17:00
(入館は16:30まで)

【休館日】

月曜日(祝日の時は火・水曜)
祝日の翌日(土・日の時は翌火曜)

入場
無料

〈新収蔵〉小杉放庵「一人」※部分

【会場】

田端文士村記念館

JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

【主催・問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 TEL.03-5685-5171 【共催】東京都北区

芸術村の
お住居 拝見
アトリエでの創作風景と暮らし

昭和15年、雑誌『スタイル』に挿絵画家である「岩田専太郎さんのお住居 拝見」という訪問記が掲載されました。岩田邸のあった田端については「昔ながらの古い静かな芸術家町である。界隈は坂道や丘に富み、明治以来数知れぬ文人画家の思ひ出の地」と紹介されています。明治末期から昭和にかけて、田端には多くの芸術家が暮らしていました。

本展では、絵画・彫刻・工芸作品などを展示するとともにアトリエやその暮らしぶりを写真等で紹介します。当時の田端芸術村を訪問した気持ちでお楽しみください。

見どころ

**名作が生み出された現場写真！
アトリエに置かれた彫刻を解析します！**



▲吉田三郎のアトリエ
板谷波山を慕い、田端に転入した吉田三郎
そのアトリエには群衆のように彫刻が立ち並ぶ



吉田三郎 ▶
「満州風景(2)」
(個人蔵)
アトリエにも置いていた
中国の風俗を表した
シリーズ作品のひとつ



▲20代 堆朱楊成
「秋草文存星圓卓」
参事・審査員を務めた
第6回日展に出品した大作

新収蔵



▲山田敬中「高士観瀑図」 「床の間に適する画をかくべく努力した敬中の山水画



▲板谷波山「窠変天目茶碗」
(個人蔵)
波山の名作のほとんどは、
田端の窠から誕生した



▲画・小杉放菴 鑄造・香取正彦
「ボブラ倶楽部ジュニアアート・ナメントロフィー」
芸術家の社交場・ボブラ倶楽部では、
老幼問わずテニスの大会も行われた



美術文芸雑誌 ▶
『方寸』第3巻3号
方寸社
田端および周辺に
暮らした画家らが創刊

◀ 田端駅のホームにて板谷波山(右端)と長男夫婦



創作だけでなく、
生活にも
焦点を当て紹介します。

見どころ

見どころ

**当館選りすぐりの美術品を
ズラリと展示します。**

関連講演会 小杉放菴 画家として、田端人として

油彩から日本画に転じ新境地を開いた放菴の画業と、田端での暮らしについてご紹介します。

講師：迫内祐司氏(小杉放菴記念日光美術館学芸員)

参加費：無料

日時：3/10(日)14:00開演

会場：田端文士村記念館多目的ホール(定員80名)

※放菴は他に未醒、放菴とも号した。

申込 往復はがき、または右の専用フォームから申込。
2/19(月)必着(申込多数の場合抽選)。
1件につき2名まで。



↑申込みはこちら